



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2022/09/13
SDS整理番号 16517350

製品等のコード : 1651-7350、1651-7280

製品等の名称 : プロピオン酸

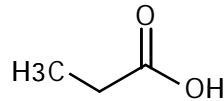
推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
染料助剤、香料、殺菌剤、防かび剤、防汚剤、農薬全般(中間体を含む)、
医薬、医薬中間体、合成樹脂、サイレージなど

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分3
自然発火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分に該当しない〔区分5(国連GHS分類)〕
急性毒性(経皮) : 区分3
皮膚刺激性/刺激性 : 区分1A
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報
引火性液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ(経口)
皮膚に接触すると有毒(経皮)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

| | | |
|-------------|-----|--|
| 化学物質・混合物の区別 | ： | 化学物質 |
| 化学名 | ： | プロピオン酸 （別名）エタンカルボン酸、プロパン酸、メチル酢酸、カルボキシエタン （英名）Propionic acid (EC名称、TSCA名称)、Ethanecarboxylic acid、Propanoic acid、Methylacetic acid、Carboxyethane |
| 成分及び含有量 | ： | プロピオン酸、99.0%以上 |
| 化学式及び構造式 | ： | CH ₃ CH ₂ COOH、C ₃ H ₆ O ₂ 、構造式は上図参照(1ページ目)。 |
| 分子量 | ： | 74.08 |
| 官報公示整理番号 | 化審法 | ： |
| | 安衛法 | ： |
| | ： | (2)-602 |
| | ： | 公表化学物質（化審法番号を準用） |
| CAS No. | ： | 79-09-4 |
| EC No. | ： | 201-176-3 |
| 危険有害成分 | ： | プロピオン酸 |

4. 応急措置

| | | |
|-----------|---|--|
| 吸入した場合 | ： | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | ： | 直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を速やかに多量の水と石鹸で洗う。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 皮膚刺激などが生じた時、気分が悪い時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。 |
| 目に入った場合 | ： | 直ちに医師に連絡する。 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診察を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | ： | 直ちに口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。 直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。 意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流 |

- を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
- 吸入した場合：灼熱感、咳、息切れ、咽頭痛
 - 皮膚に付着した場合：皮膚熱傷、痛み、水疱
 - 眼に入った場合：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷
 - 飲み込んだ場合：胃痙攣、灼熱感、吐き気、ショックまたは虚脱、咽頭痛、嘔吐
- 応急措置をする者の保護：火気に注意する。
 有機溶剤用の保護マスク、防護手袋、保護メガネがあればそれを着用する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。
 粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧など
- 使ってはならない消火剤：大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
 特有の危険有害性：棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
 引火性が極めて高い。
- 特有の消火方法：燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
 引火点(53)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 消火を行う者の保護：火元への燃焼源を遮断する。
 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
- ：漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 - ：漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 - ：風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 - ：皮膚、眼など身体とのあらゆる接触を避ける。
 - ：蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
 - ：密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項
- ：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 - ：乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 - ：大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
 - ：大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材
- ：危険でなければ漏れを止める。
 - ：漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
 - ：蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策
- ：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 - ：周辺の発火源を速やかに取除く。
 - ：排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策
- ：裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
 - ：引火点(53)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
 - ：ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 - ：指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
 - ：指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
 - ：指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
 - ：指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取扱いについては届出の必要はない。

| | |
|------------------------------|---|
| <p>局所排気・全体換気</p> | <p>： 炎、火花または高温体との接触を避ける。 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。</p> |
| <p>安全取扱い注意事項</p> | <p>： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。 眼に入れない。 接触、吸入又は飲み込まない。</p> |
| <p>接触回避 保管 技術的対策</p> | <p>： 炎、火花または高温体との接触を避ける。</p> |
| <p>保管条件</p> | <p>： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。</p> |
| <p>混触危険物質 容器包装材料</p> | <p>： 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。 直射日光や高温を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 施錠して保管する。 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。 酸化剤、アルカリ性物質、多くの金属 ガラスなど。 アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。</p> |

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

本品のデータなし。
 類似化合物の酢酸(CH3COOH、CAS No.64-19-7)のデータを示す。

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレンゴム× クロロプレンゴム(ネオプレン)× ニトリルゴム× ブチルゴム×
 天然ゴム× シリコーンゴム フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)× テフロン
 軟鋼× ステンレス(SUS304× SUS316×) チタン アルミニウム 銅×
 軟質塩ビ× 硬質塩ビ ポリスチレン× ABS× ポリエチレン ポリプロピレン
 ナイロン× アセタール樹脂 - アクリル樹脂× ポリカーボネート× ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|--|---|
| <p>管理濃度</p> | <p>： 設定されていない。</p> |
| <p>許容濃度（ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH</p> | <p>生物学的ばく露指標）： 設定されていない。 TLV-TWA 10ppm</p> |
| <p>設備対策</p> | <p>： 防爆の電気・照明機器を使用する。 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 静電気放電に対する予防措置を講ずる。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。</p> |
| <p>呼吸器の保護具</p> | <p>： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。</p> |
| <p>手の保護具</p> | <p>： 保護手袋（テフロン製、塩化ビニル製など）を着用する。</p> |
| <p>眼の保護具</p> | <p>： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。</p> |
| <p>皮膚及び身体の保護具</p> | <p>： 長袖作業衣を着用する。</p> |
| <p>衛生対策</p> | <p>： 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。</p> |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|------------------|---|
| 物理状態 | |
| 性状 | : 液体 |
| 色 | : 無色 |
| 臭い | : 刺激性の不快臭 |
| pH | : 2.5 (10%水溶液、20) |
| 融点 | : -21 |
| 凝固点 | : データなし |
| 沸点 | : 141 |
| 引火点 | : 53 (密閉式) |
| 可燃性 | : 引火性 |
| 爆発範囲 | : 下限 2.1 vol% 上限 12 vol% |
| 蒸気圧 | : 3.9 hPa (20)、 1.33 kPa (40) |
| 相対ガス密度 (空気 = 1) | : 2.6 |
| 20 での蒸気/空気混合 | |
| 気体の相対密度 (空気 = 1) | : 1.01 |
| 密度又は相対密度 | : データなし |
| 比重 | : 0.993 ~ 0.998 (20/20) |
| 溶解度 | : 水に混和しやすい。 エタノール、アセトン、ジエチルエーテル、エステル類、 多くの有機溶剤に混和しやすい。 |
| オクタノール/水分係数 | : log Pow = 0.33 |
| 発火点 | : 485 |
| 分解温度 | : データなし |
| 粘度 | : 1.02 mPa・s (25) |
| 動粘度 | : 0.590 mm ² /s (測定温度不明) |
| 粒子特性 | : データなし |
| GHS分類 | |
| 引火性液体 | : 引火点53 (密閉式) (ICSC(J) (1997)) であり、 23 および 60 であることから、区分3とした。 引火性液体及び蒸気 (区分3) |
| 自然発火性液体 | : 発火点485 (ICSC(J) (1997)) であり、常温の空气中で自然発火 しないと考えられるので、区分に該当しないとした。 |

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

| | |
|------------|---|
| | : 通常の取扱条件において安定である。 容器材質として、耐酸性鋼、ポリエチレンとアルミニウムは 耐久性がある。 |
| 危険有害反応可能性 | : 塩基、強酸化剤、アミンと反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 多くの金属 (鉛、亜鉛など) を腐食して引火性/爆発性気体の 水素ガスを発生する。 引火点 (53) 以上に加熱されると引火燃焼の危険がある。 53 以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。 |
| 避けるべき条件 | : 高温、日光、裸火、高温、スパーク、静電気 |
| 混触危険物質 | : 酸化剤、アルカリ性物質、多くの金属 |
| 危険有害な分解生成物 | : 一酸化炭素、二酸化炭素 |

11. 有害性情報

| | |
|----------------|--|
| 急性毒性 | : 経口 ラット LD50 = 2600mg/kg (PATTY, 4th, 1994)、 4260mg/kg (ACGIH (7th, 2001)) 区分5とした (国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 飲み込むと有害のおそれ (経口) (区分5) |
| 経皮 | : ウサギ LD50 = 496mg/kg (ACGIH, 2001) 皮膚に接触すると有毒 (経皮) (区分3) |
| 吸入 (蒸気) | : 区分に該当しない。 ラットでの飽和蒸気 (4650ppm) による 8 時間吸入暴露では、 死亡が認められない (ACGIH, 2001) との記述 (4 時間 暴露換算値 (6580 p p m))。 区分に該当しないとした。 |
| 吸入 (ミスト) | : 分類できない。 |
| 皮膚刺激性/刺激性 | : ウサギでの皮膚刺激性試験では壊死が認められる (ACGIH, 2001)、あるいは 腐食性である (IUCLID, 2000) との記述。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分1A) |
| 眼に対する重篤な損傷/刺激性 | |

| | | |
|------------------|---|---|
| | : | ウサギを用いた試験において重度の傷害を起こし重症度評価10段階中9を示した (HSDB(2006))。重篤な眼の損傷 (区分1) |
| 呼吸器感作性 | : | 分類できない。 |
| 皮膚感作性 | : | 分類できない。 |
| 生殖細胞変異原性 | : | 区分に該当しない。 生殖細胞 <i>in vivo</i> 経世代変異原性試験 (ラットに経口投与による優性致死試験 (IUCLID(2000))) および体細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験 (チャイニーズハムスターに腹腔内投与による小核試験 (PATTY (5th, 2001))), ラットに経口投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験 (IUCLID (2000)) の結果がいずれも陰性であった。 また、 <i>in vitro</i> ではエームス試験 (PATTY (5th, 2001)) およびヒトWI38細胞を用いた染色体異常試験 (IUCLID(2000)) の結果はいずれも陰性であった。 |
| 発がん性 | : | 分類できない。 |
| 生殖毒性 | : | IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載がない。 ラット、マウス、ハムスターおよびウサギの妊娠期間に混餌投与した試験では、母獣および仔の生存に影響せず、胎仔異常の増加も認められなかったとの結果 (PATTY, 5th, 2001) が報告されているが、交配前からのばく露による親動物の性機能、生殖能への影響が不明のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | : | ヒトで吸入により、鼻、喉、肺を刺激し、咳、喘鳴、息切れを起こす (HSFS(2001))とされ、ラットで4時間吸入ばく露後の所見として、呼吸器系の刺激が記載されている (HSDB(2000)) ことより、区分3 (気道刺激性) とした。 呼吸器への刺激のおそれ (区分3) |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | : | 分類できない。 ラットに3ヵ月およびイヌに100日間混餌投与した試験の主な影響は、いずれも局所影響として、ラットでは前胃粘膜の変化 (表皮肥厚、角質増殖、上皮増生)、イヌでは食道粘膜の上皮過形成が高用量群で認められたことであり、その他に重大な毒性所見の記載はなく、NOAELはラットで飼料中濃度2.5% (約1250mg/kg/day相当)、イヌで飼料中濃度1% (600~696mg/kg/day相当) と報告されている (SIDS(2008))。これらのNOAELはいずれもガイダンス値範囲区分2の上限を超えているので、経口経路では区分に該当しないに該当するが、他経路のデータが不十分なため、分類できないとした。 |
| 誤えん有害性 | : | 分類できない。 |

12. 環境影響情報

| | |
|-----------------|--|
| 生態毒性 | |
| 水生環境有害性 短期 (急性) | : 甲殻類 (オオミジンコ) 48時間EC50 = 22.7ppm (AQUIRE、2003) 水生生物に有害 (区分3) |
| 水生環境有害性 短期 (急性) | : 区分に該当しない。 本品は良分解性である (経産省既存化学物質安全性点検結果)。水溶液が強酸となることが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため、区分に該当しないとした。 |
| 残留性・分解性 | : データなし |
| 生物蓄積性 | : 低濃縮性。Log Pow = 0.33 |
| 土壤中の移動性 | : データなし |
| オゾン層への有害性 | : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。 |

13. 廃棄上の注意

| | | |
|-------|---|---|
| 残余廃棄物 | : | 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考) (1) 燃焼法 |
|-------|---|---|

可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。

汚染容器及び包装 : (2)活性汚泥法
生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 132

国際規制

海上規制情報 (IMO/IMDGコードの規定に従う)
UN No. : 3463
Proper Shipping Name : PROPIONIC ACID, not less than 90% ,by mass
Class : 8 (腐食性物質)
Sub Risk : 3 (引火性液体)
Packing Group : II
Marine Pollutant : No (非該当)
TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE
POLLUTANT CATEGORY : Y (プロピオン酸)
Limited Quantity : 1L
航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)
UN No. : 3463
Proper Shipping Name : Propionic acid, not less than 90% ,by mass
Class : 8
Sub Risk : 3
Packing Group : II

国内規制

陸上規制情報 (消防法、道路法の規定に従う)
海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)
国連番号 : 3463
品名 : プロピオン酸 (濃度が90質量%以上のものに限る)
クラス : 8
副次危険 : 3
容器等級 : II
海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : Y (プロピオン酸)
少量危険物許容量 : 1L
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)
国連番号 : 3463
品名 : プロピオン酸 (濃度が90質量%以上のものに限る)
クラス : 8
副次危険 : 3
等級 : II
少量輸送許容物件許容量 : 0.5L

特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬する。
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
他の危険物のそばに積載しない。
移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物
 (政令番号 第493号「プロピオン酸」、対象重量%は 1)
 名称等を通知すべき危険物及び有害物
 (政令番号 第493号「プロピオン酸」、対象重量%は 1)
 (別表第9)
 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
- 化学物質排出把握管理促進法
 (PRTR法) : 非該当
- 消防法 : 危険物第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体、指定数量2000L、
 危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 船舶安全法 : 腐食性物質(危規則第2,3条危険物告示別表第1)
- 航空法 : 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Y類物質「プロピオン酸」(施行令別表第1)
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目(施行令第三条第一項)
 「水素イオン濃度」
 [排水基準]・海域以外の公共用水域に排出されるもの
 5.8以上8.6以下
 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
 [排水基準]160mg/L以下(日間平均120mg/L以下)
 (注)排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合は
 それに従うこと。
- 悪臭防止法 : 特定悪臭物質(施行令第一条)
- 輸出貨易管理令 : キャッチオール規制(別表第1の16項)
 HSコード(輸入統計番号、2020年10月1日版):2915.50-000
 第29類 有機化学品
 「飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、
 酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化
 誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
 -プロピオン酸並びにその塩及びエステル」

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

| | |
|--|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances | NIOSH CD-ROM |
| GHS分類結果データベース | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。